

## ここ通編集委員によるレポート

2月20日、第26回県民健康調査検討委員会が、福島市グリーンパレスで開催された。15人中5人も欠席の検討委員のほか、県立医大関係者35人が出席。多数の報道関係者および傍聴の県民が見守った。

小児甲状腺がんと診断された子どもは、前回から1人増え185人となった。先行検査では、がんと診断された子どもは116人。2巡目の本格検査でがんと診断された69人（男性31人、女性38人）の先行検査結果は、A判定63人（A1が32人、A2が31人）、B判定5人、先行検査未受診1人。今回、先行検査でA1判定の女性1人ががんと診断された。

昨年の5月1日からは、3巡目の検査も始まっているが受診率が25%と低下している。とりわけ高校卒業後の6.6%という検査受診率を問題視した記者からの質問に、県の小林課長は「非常に問題だと思っている。受診したいという方の機会を確保する」と答えた。表向きは問題だと発言しながら、県と県立医大は「希望者に限定」の方向で検査の実質的縮小を誘導している。「過剰診断」「過剰治療」と言う医師らのコメントの報道に偏重させ、検査に行きたくないという雰囲気をつくりだしている。実際の検査結果を見れば、希望者に限定するどころか、大人もふくめたすべての県民に受診を促す対策をとらなければならないはずだ。

### 環境省が「第三者機関」設置を主導

前回の検討委員会（12月27日）で、星北斗座長が唐突に提案した「第三者機関」設置案は、検討委員には事前に何も知らされていなかったことが明らかになった。委員からは「第三者機関について、前回、あの場ではじめて聞いて驚いた」「（第三者機関の設置を）この委員会が要望したという形にはしないほしい」との発言もあった。

前回に続き今回も、梅田珠実委員（環境省保健福祉部長）が「第三者機関」設置に向け主導的な役割を担った。環境省は、原子炉等規制法で定められた、原発の解体などでできたコンクリートや金属の再生利用にあたってのこれまでの基準である100ベクレル/kgを80倍も引き上げ、8000ベクレル/kg以下の汚染土を全国の公共事業などに再利用する省令を定めている。また「放射線リスクコミュニケーション」という名の安全・安心キャンペーンを繰り広げ、帰還の強制にもっとも力を入れている。その環境省の保健福祉部長が、検討委員会の委員として、「（検査縮小を求める）国際的知見を取り入れた第三者機関の設置を」と積極的に発言するのは大問題だ。

### 根拠のない安全・安心論でなく、検査を受けられる体制を

いま県民に必要なことは、根拠のない安全・安心論ではなく、福島で起きていることが正しく伝わることだ。震災から5年間で福島県内の主要な9つの医療機関における甲状腺がんの手術数が1082人だったことが国会で明らかになっている。いま、福島で起きていることと切り離れた国際的知見などありえない。私たちの権利を守るためには、県民の目の届くところで委員会が開かれなければならない。事実を隠すことなく県民に伝え、検査に行く必要性を訴えること、すべての県民が検査を受けられる体制を作ることこそ県がなすべきことだ。

甲状腺がんまたは疑いの子ども		185人
		2017年2/20発表
	先行検査	本格検査
甲状腺がん または疑い	116人	69人 <small>先行検査結果の内訳 ※未受診1人 (A1:32人 A2:31人 B:5人)</small>
手術を受けた 子ども	102人	44人
がん確定	101人	44人
年齢（震災当時）	6歳～18歳	5歳～18歳
性別	男性39人:女性77人	男性31人:女性38人
腫瘍径	5.1mm～45.0mm	5.3mm～35.6mm
対象人数	36万8000人	38万1000人
対象者	原発事故当時18歳以下	原発事故当時18歳以下+ 事故後1年間に産まれた子ども
実施人数	300,476人	270,489人 (2016年12/31現在)
実施年度	2011年10月～2015年4月	2014年4月～2016年12月

<がんまたは疑い 市町村別184人内訳>		※良性1人は含まない
【国が指定した避難区域等の13市町村】		先行検査2011年度実施
9人：伊達市		
6人：南相馬市		
4人：浪江町		
3人：大熊町		
2人：川俣町、		
1人：川内村、富岡町		
0人：飯舘村、広野町、楡葉町、双葉町、葛尾村		
	前回2016年12/27発表から 本格検査1人増加	
【中通り】		先行検査2012年度実施
43人：郡山市 (1人増)		
22人：福島市		
7人：白河市		
6人：二本松市、本宮市		
5人：田村市、須賀川市		
2人：大玉村、棚倉町、西郷村		
1人：泉崎村、三春町、石川町、平田村、桑折町、中島村、鏡石町、矢吹町、塙町		
	二次検査が必要な子ども 先行検査 2294人 本格検査 (2巡目) 2226人 本格検査 (3巡目) 483人	
【浜通り】		先行検査2013年度実施
31人：いわき市		
1人：相馬市		
【会津地方】		先行検査2013年度実施
8人：会津若松市		
3人：喜多方市		
1人：会津坂下町、猪苗代町、下郷町、湯川村		

## 第2回 被曝・医療 福島シンポジウム開催しました

3月12日のシンポジウムには200名を超える方々に参加いただきました。よせられた感想の一部を紹介します。

当日の全発言を収録した報告集が完成しましたので、ぜひお買い求めください（次ページ下段に詳しい案内があります）



（安全キャンペーンによる）「福島大丈夫」の根拠の一つとして、韓国女性の甲状腺がん増加が引き合いに出されますが、キム先生から韓国の実情（通常運転の原発周辺でのがんの増加とそれを裁判で認めさせたこと）をうかがえて大変有意義でした。日本でも原発周辺地域の健康被害の洗い出しが必要だと思います。

「大本営発表」ばかりで真実はメディアまでも隠されている現状。多くの市民に聞いてもらいたい講演でした。

この土地を離れて生活するすべもなく、仕方なく、仕事をして生活しなければならないと自分に言い聞かせているのが現実です。山田先生、キム先生からも、立ち上がる、直接交渉が大事だという話がありましたので、すこし考えてみようと感じました。

布施先生が呼びかけた署名運動と県や国に直接はたらきかける行動の提起が重要と思う。

沖縄のように直接行動ができない福島県民も多いです。現実に生活している環境から逃げ出せない状況であり、口に出しても仕方がないと思っています。

このシンポジウムに参加するとすっきりします。すっきりして日常を説明することができます。

この熱気を会場の外にどう伝えるかが問題だと思う。

問題を解決するには、直接自分たちが立ち上がり、あきらめずに声を出していかなければならない。周囲の人々に声をかけていくことが大事だと思います。

ふくしま共同診療所が私たちの支えになっています。たくさんの人たちの命を救っています。私たちも頑張ります。診療所の皆様も一緒に闘ってください。一人でも多くの方が診療所での検査を受けてくれることを願います。



## お母さんの アンテナ

## 復興大臣のドタバタ劇



「あっちの方でよかった」という大臣の発言は、なんと嫌な出来事でした。それも一度ばかりではなかったですね。

「ふるさとを捨てるというのは簡単だ。戻って頑張っていくんだという気持ちを持ってもらいたい。」東京電力福島第一原発事故で今も帰れない自主避難者について、国が責任を取るべきではないか？という記者の質問に「自主避難は自己責任」などなど。原発事故の実情をわかっていないということがありありと表れましたよね。他人事です。

この今村元大臣の発言は公の場での発言ですから個人的な発言ではなく政府統一見解なのでしょう。そのことが正されないまま、また新しい大臣になっても

（それが福島県選出であっても）同じことなのではないかと思ってしまうのは私だけでしょうか。

今回の一件で政府の統一見解が露呈してしまったわけですが、そもそも原発事故でなぜ避難しなくてはいけなかったのか（それが避難強制地区でなくても）、また、避難したくてもできなかった人と、その理由、そして今現在の汚染状況をすべて把握して欲しいです。

だっていまだに緊急事態の基準値（20mSv/y）で暮らしているのが現状ですよ！

